



総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

日 時：平成29年3月29日（水）午後6時～
場 所：サン・オリーブ多目的ホール

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	I 健康づくり	施策	小豆島中央病院を核とした地域医療の充実、「地域包括ケア」構築のための介護人材の量と質の確保
所管課等	健康づくり福祉課、高齢者福祉課		

具体的な施策の取組み状況	今後の展開等
--------------	--------

平成28年4月1日開院の小豆島中央病院を核として、総合的かつ一体的なサービス提供と関係機関の連携を図って地域包括ケアシステムによる地域づくりを推進している。

《小豆島の地域医療を守り育てる島民会議》

島のみなが自分たちの病院であるという気運を高めていくため、小豆島の地域医療を守り育てる島民運動を実施した。

- 開催日：9月3日、11月26日、12月17日、3月5日、3月18日
- 参加者：396人(3月5日までの累計)

かかりつけ医普及啓発講演会



小豆島の救急医療の現状について



《地域包括ケア連絡会の設立》

多職種が連携し、小豆島全体で医療・介護・福祉に取り組むための地域包括ケア連絡会を平成28年7月31日に設立し、各部会ごとに町を越えて連携した活動を実施した。

介護部会

在宅生活を支えるための医療・介護の連携強化に係る取り組みの実施

9月29日、10月4日、11月29日(3回)



健康づくり部会

生涯健康づくり社会を目指した取り組み

7月20日、8月7日・10日・23日、10月2日、1月31日(6回)



左記事業を継続実施するとともに、下記事業を実施する

《健康づくりのエビデンス検証事業》

■小豆島中央病院と連携し、ヘルスケアシステム利用者の血圧、体脂肪等のデータの推移を検証し、効果的な健康指導を実施する。



《カラダきり健康ポイント事業》

■健康ポイントの付与を行うことで、各種健診、運動プログラムなど健康づくり事業の活動への参加を高め、町民の健康に対する意識の向上及び健康の保持増進を図る。ひいては、健康的な生活習慣の定着や医療費の抑制につなげる。



《介護人材確保対策事業》

■介護に関する知識を習得させるとともに、介護人材の裾野拡大を図るため、介護職員初任者研修を土庄町と合同で小豆島で開催する。

「地域包括ケア」構築のための介護人材の量と質の確保

【介護予防ボランティアの養成・活動支援】

社会参加、地域貢献や自身の介護予防を推進する介護予防ボランティアの拡大

【介護職員の初任者研修、介護福祉士実務者研修に対する助成】

介護職員初任者研修助成件数：5件/年、介護福祉士実務者研修助成件数：3件/年

【ICTを活用した状態把握システムを介護現場に導入】

先行事例を地元事業者へ適用し、評価指標モデルを構築





総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	I 健康づくり	施策	ぬくもりと希望の島づくり事業
所管課等	健康づくり福祉課・学校教育課・子育て共育課・高齢者福祉課		

具体的な施策の取り組み状況	今後の展開等
<p>《グループホームソレイユの開設》</p> <p>■主に知的障がい者の暮らしの場として、平成26年に旧二生幼稚園舎を改修し、開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同生活援助：利用定員5名…① ・短期入所：利用定員1名…② <p>【利用状況】</p> <p>平成26年度 ①当初3名→末5名 ②月平均15.5人日 平成27年度 ①5名 ②月平均21.5人日 平成28年度 ①5名 ②月平均27.5人日</p> 	<p>《学びの場づくり》</p> <p>■特別支援学校の整備を行い、ひとりひとりに合ったきめ細やかな教育が受けられる機会・体制を確保する。香川県に対して、小豆島にふさわしい学校となるよう要望・意見提言を行う。</p> <p>■教員のスキルアップを図り、特別支援学級や通級指導を充実させるとともに、幼児期から高等学校卒業まで切れ目のないサポートの実現を目指す。</p>
<p>《特別支援学級に通う児童のための「劇団ままと」による演劇ワークショップの実施》</p> <p>■多世代交流・多機能施設である遊児老館にて小学校の特別支援学級に通う児童を対象に演劇ワークショップを行った。</p> <p>【実施内容】</p> <p>開催日時：平成28年10月31日 午後1時30分～午後3時</p> <p>参加児童：池田小学校13名 苗羽小学校11名</p> 	<p>《暮らしの場づくり》</p> <p>■地域生活支援拠点施設の整備を行い、だれもが安心して暮らせる場を確保する。先進施設を視察するほか、当事者・家族からの意見聴取、専門家を招聘して講演を実施する。</p> <p>■地域生活支援拠点施設においては、暮らしの場としてだけでなく、障がい者の相談・緊急時の一時受入れ・災害時の避難拠点も担う場として機能するよう整備を行う。</p>
<p>《小豆圏域障害者差別解消支援地域協議会の設立》</p> <p>■小豆圏域において、障がいを理由とする差別の解消に向けて協議の場として設置。</p> <p>設立：平成29年1月28日</p> <p>【構成員】40機関・団体</p> <p>行政機関：各町福祉・人権・教育部局、県、小豆事務所 障がい者等団体：町身障協会、郡手をつなぐ育成会 教育：郡校・園・所長会、高松養護・香川中部養護学校 福祉：町社協、郡内障害サービス事業法人、町民生委員協議会 医療・保健：郡医師会 事業者等：町商工会、郡内公共交通機関、職安、人権擁護委員他</p> 	<p>《働く場づくり》</p> <p>■障がい者がそれぞれの個性と能力を活かし、いきいきと働ける就労場の整備を行う。</p> <p>■企業と意見交換を行い、障がい者雇用の促進を働きかける。</p>
	<p>《交流の場づくり》</p> <p>■さまざまな世代が集いふれあえる場を整備し、劇団による演劇ワークショップやアーティストとの作品作りなどを通して、相互理解を深める。</p> <p>■引き続き田植え・稲刈り、スポーツ大会などの交流イベントを実施する。</p>
	<p>《検討委員会の設置》</p> <p>■上記事業を推進するにあたり、現行のぬくもりと希望の島づくりチームでの検討に加え、新たに専門の委員会を設置する。上記事業を平成29年度に策定する第3期障がい者計画・第5期障がい福祉計画に反映させる。</p>

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	I 健康づくり	施策	特別養護老人ホームと介護老人保健施設の整備																																					
所管課等	介護老人保健施設																																							
具体的な施策の取り組み状況						今後の展開等																																		
<p>内海病院施設の有効利用と特別養護老人ホームの待機者(第6期計画策定時調査28名)の解消を図るため、病院跡地に特別養護老人ホームと小規模老人保健施設を整備する。</p>						«6月1日運営開始»																																		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">老健うちのみ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">老健 70床</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">通所リハ 25名</div> </div>																																								
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">4階～6階</td> <td style="width: 85%;">特養 60床 ショートステイ 4床</td> </tr> <tr> <td>3階</td> <td>老健 28床 通所リハ 25名</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">内海病院施設</p>							4階～6階	特養 60床 ショートステイ 4床	3階	老健 28床 通所リハ 25名																														
4階～6階	特養 60床 ショートステイ 4床																																							
3階	老健 28床 通所リハ 25名																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <th>平成29年</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老健施設</td> <td colspan="4" style="text-align: left;">老健うちのみを運営</td> <td colspan="2" style="text-align: left;">庁舎に改修</td> </tr> <tr> <td>内海病院施設</td> <td colspan="2" style="text-align: left;">改修工事</td> <td colspan="4" style="text-align: left;">特養と老健を運営</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td colspan="2" style="text-align: left;">人員確保</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>事務手続き</td> <td style="text-align: left;">事前協議</td> <td style="text-align: left;">条例改正</td> <td colspan="4" style="text-align: left;">指定申請</td> </tr> </tbody> </table>						平成29年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	老健施設	老健うちのみを運営				庁舎に改修		内海病院施設	改修工事		特養と老健を運営				スタッフ	人員確保						事務手続き	事前協議	条例改正	指定申請			
平成29年	2月	3月	4月	5月	6月	7月																																		
老健施設	老健うちのみを運営				庁舎に改修																																			
内海病院施設	改修工事		特養と老健を運営																																					
スタッフ	人員確保																																							
事務手続き	事前協議	条例改正	指定申請																																					
																																								

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	Ⅱ 子育て・人づくり	施策	すくすく子育て応援アクションプランの推進
所管課等	子育て共育課		

具体的な施策の取り組み状況	今後の展開等
---------------	--------

《子育てに関する情報発信》

- 子育て共育課のホームページを改良し、見やすくわかりやすいものにした。子育てガイドブックを作成し、幼稚園・保育所等に配布した。



《情報発信》

- 子育て共育課のホームページをさらに見やすくわかりやすくするとともに、子育てガイドブックとQRコードを連動させ、子育て共育課ホームページへのアクセス数を増やす。

《フレキシブル勤務の推進》

- 公立保育所において、保育士資格者の都合のいい時間に勤務できるよう柔軟な雇用を行っている。



《フレキシブル勤務の推進》

- 継続して実施し、仕事と家事の両立を応援するとともに、教育・保育サービスを充実させる。

《男女共同参画の実現》 新

- 小豆島中央病院においてマタニティ教室を月1回実施している。
- 町主催の講演会へ子育て世代の参加を促すため、託児所を設置し、参加しやすい環境づくりに努めた。また、住民の社会参加を促すため託児ボランティア事業を始めた。



《男女共同参画》

- マタニティ教室を継続して実施する。男性の参加者を増やす工夫をする。
- 託児ボランティア事業を充実させるため、啓発を行い、ボランティア登録者を増やす。

《出合いの輪創出事業》

- 土庄町、小豆島町商工会、土庄町商工会と共同で事業を行っている。毎回、事業内容を協議し、小豆島の豊かな自然や産業を生かしながら実施している。



《出合いの輪創出事業》

- これまで行った事業の反省点を踏まえ、小豆島の特色を生かした企画を検討、実施することにより参加者数を増やし、婚姻数を増やす。

《地域づくりプロジェクト》

- 子育て世代の孤独感、不安感を解消するため、地域住民との交流の場を作り、事業を行っている。(旧JA草壁支店、遊児老館)



《地域づくりプロジェクト》

- 住所地や世代を問わず、雨の日にも利用できる子育ての集いの場として活発な利用を促すため、町主催のイベントを行うなど、周知を行う。

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	Ⅱ 子育て・人づくり	施策	すくすく子育て応援アクションプランの推進
所管課等	子育て共育課		

具体的な施策の取り組み状況	今後の展開等
<p>《子育ての環境づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 公立認定こども園の新設については、小豆島町総合教育会議で学校施設のあり方とともに検討することとした。 	<p>《子育ての環境づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 平成29年4月、私立保育所が私立認定こども園に移行し、定員増を行う。充実した教育・保育を提供する。 ■ 待機児童0を継続する。
<p>《病児の通院サービス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 出張や体調不良等の保護者に代わって病児・病後児を病児保育室へ連れて行く体制は整っている。 	<p>《病児の通院サービス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者が病児を病児保育室へどうしても連れて行けない場合の手段として関係機関と連携し、サービスを提供することにより、子育て世帯を応援する。
<p>《延長保育》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常の利用時間を越えて保育を実施している。 	<p>《延長保育》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 継続して実施し、子育て世帯を応援する。
<p>《地域子育て支援拠点事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 家庭保育する保護者が相互に交流できる場を提供している。 	<p>《地域子育て支援拠点事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 継続して実施し、子育て世帯を応援する。
<p>《一時預かり事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 一時的に家庭での保育ができない乳幼児を預かっている。 	<p>《一時預かり事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 継続して実施し、子育て世帯を応援する。
<p>《放課後児童クラブ事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 昼間労働等で保護者が家庭にいない小学生を授業終了後や長期休業中に預かっている。内海放課後児童クラブは第2クラブを新設し、定員を増やした。 	<p>《放課後児童クラブ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 継続して実施し、子育て世帯を応援する。
<p>《病児・病後児保育事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 病院等の専用スペースで看護師等が一時的に病児を預かっている。 	<p>《病児・病後児保育事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 継続して実施し、子育て世帯を応援する。

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	Ⅱ 子育て・人づくり	施策	幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
所管課等	学校教育課		




具体的な施策の取り組み状況	今後の展開等
<p>《幼・保、小、中、高の連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 幼・保、小、中、高の教員を対象に、学校教育研究会を開催し、校種間の情報共有を図るとともに連携を強化した。 ■ 幼・保、小、中、高の教員を対象に、学力向上講習会を年1回開催した。 ■ 小、中の教員を対象に、運動能力向上講習会を年数回開催した。 ■ 小、中、高において、京大アメフト部との交流事業を行った。 	<p>《幼・保、小、中、高の連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 小豆島中央高校を頂点とした一貫教育について、新しい枠組みで検討し、実践する。 ■ 一貫教育の検討組織として、小豆島教育会議(仮称)等を設置し、一貫教育の取組や交流事業の実施について検討する。
<p>《学力向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 教育指導室を設置し、幼・保、小、中学校に指導訪問等を行い、若年教員の資質向上、管理職の指導力向上、課題を抱える教員の指導力改善等、教職員のスキルアップを図った。 ■ 小、中学校に、外国語活動支援員を配置し、英語教育の充実を図った。 ■ 小、中学校に、タブレットパソコンを導入し、タブレットを活用した授業を行うことで、情報教育の充実を図った。 	<p>《学力向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 幼・保、小、中学校に指導訪問等を継続して行い、さらなる若年教員の資質向上等を図る。 ■ 外国語活動支援員の配置やALTを活用し、英語教育のさらなる充実を図る。 ■ タブレットを有効活用した授業を行い、さらなる情報教育の充実を図る。
<p>《運動能力の向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中学校や高校の部活動に対して、強化補助金を交付し、強豪校や指導者を招聘することにより、個人の運動能力の向上を図り、四国大会や全国大会への出場を支援した。 ■ 小、中学校の児童生徒の体力・競技力向上を図るための運動プログラムを策定し、児童生徒及び教員に対して、共通したプログラムに沿って、取組を実践した。 ■ 運動能力向上講習会、トレーニング講習会、幼稚園での運動教室、池田学童等での運動教室を継続して実施した。 	<p>《運動能力の向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中学校や高校の部活動に対して、強化補助金を継続して交付し、四国大会や全国大会への出場者を増やす。 ■ 教職員の指導力や児童生徒の運動能力の向上を図るため、すべての小、中学校で共通した運動プログラムを実践する。 ■ 運動能力向上講習会等を継続して実施し、児童生徒等の運動能力や基礎体力の向上に努める。
<p>《コミュニケーション能力の向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中学校において、平田オリザ氏による演劇ワークショップを継続して行い、コミュニケーション教育を実践した。 ■ すべての小学校において、わたなべなおこ氏による演劇ワークショップを行い、コミュニケーション教育を実践した。 ■ 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の取組として実施している「文化芸術鑑賞事業」を活用し、劇団四季によるミュージカルを小学校6年が観劇した。 	<p>《コミュニケーション能力の向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 平田オリザ氏、わたなべなおこ氏による演劇ワークショップを継続して行い、コミュニケーション能力の向上を図る。 ■ 劇団ままごとやアーティストにより、特別支援学級児童を対象とした演劇ワークショップを実施し、自己表現能力を高める。 【健康づくり福祉課】 ■ 芸術文化鑑賞事業(文化庁補助事業)や劇団四季によるミュージカル等を観劇し、豊かな情操を養う。

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅱ 子育て・人づくり	施策	いきいきプラン～男女共同参画基本計画～の推進
所管課等	人権対策課・健康づくり福祉課・高齢者福祉課・子育て共育課		
具体的な施策の取組み状況		今後の展開等	
<p>《さまざまな分野での男女の意識づくり》 -男女共同参画推進 シンポジウムの開催-</p> <p>■基調講演ではワーク・ライフ・バランスなど柔軟な考え方が必要であるとの意見、パネルディスカッションでは、人も町もいきいきとなるために、パネリストの方々からご意見をいただいた。 子育て中の方々にも参加いただくために託児サービスを設置し、12名の利用があった。【参加者:107名 男性:53名、女性54名】</p>		<p>《男女共同参画推進委員会の設置》</p> <p>■男女共同参画社会の形成を推進するにあたり、広く町民の意見を反映するための委員会を設置する。今後、男女共同参画基本計画策定委員を中心に、広報誌等で、男女共同参画に関心を持つ町民を2名公募する。</p>	
<p>《さまざまな分野での男女の意識づくり》 -広報誌「しょうどしま」にいきいきプラン(概要版)の折り込み-</p> <p>■男女共同参画という言葉をまずは知ってもらい、今後は必要性を理解してもらう取り組みを進めていく。</p>		<p>《託児ボランティア事業の実施》</p> <p>■子育て中の町民が講演会、講座、会議等に安心して参加できるよう、また、託児ボランティア自身の社会参加を促進するために、町が主催する該当事業に託児ボランティア事業を実施する。託児ボランティア事業を充実させるために啓発を行い、ボランティア登録者数を増やす。</p>	
<p>《男女があらゆる分野に参画できる環境づくり》 -家事場のパパちからスクールの開催-</p> <p>■男性に家事・育児・介護への参加を図るため、基本的なスキルを学ぶ講座を香川県と共催で、3日間開催した。 【参加者:24名】【全課程受講者:7名】</p>		<p>《男女共同参画推進講座の開催》</p> <p>■女性が働き続けるためには、男性の家事、育児、介護への参加が欠かせません。しかし、男性の固定的性別役割分担意識や、男性が仕事中心の生活であることから、家事、育児、介護の負担は女性に偏りがちです。今後は男女ともに意識改革が必要なことから、男女共同参画推進講座を開催する。</p>	
<p>《一人ひとりが人権を尊重しあえるまちづくり》 -しあわせづくり講演会-</p> <p>■さまざまな人権課題を解決できる人づくり、また、違いを認め合える人権尊重のまちづくりのために、講演会を開催した。講師 佐野有美さんが大切にしている4つの言葉「ありがとう、笑顔、支え合い、絆」を心に刻んだ。 【参加者:179名】</p>		<p>《しあわせづくり講演会の開催》</p> <p>■人権とは、「誰もが幸せに生きる権利」であり、人権について学ぶことは、誰もが幸せになるために必要なこととして、人権感覚を磨くための教育、啓発を引き続き進める。</p>	
<p>《一人ひとりが人権を尊重しあえるまちづくり》 -虐待防止等ネットワーク会議での連携強化-</p> <p>■児童虐待部会、DV対策部会、障害者虐待部会、高齢者虐待部会で構成されている会議において、相談窓口を記載しているリーフレットを作成し、商工まつりで啓発活動を行った。</p>	 		

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅲ 産業づくり	施策	産業振興による地域経済の活性化
所管課等	産業支援室		

具体的な施策の取組み状況	今後の展開等
<p>〈地域経済の循環を高めるため、商工会の活性化を図る〉</p> <p>人口減少、地元商店の減少、後継者不足など、今後小豆島の活性化を考えたらうで、地域に密着した商工会と連携を図ることが、不可欠である。</p> <p>商工会の組織体制など機能を強化するために、アドバイスや情報共有のための定例会を開催した。また、地場産業活性化セミナー開催、よろず支援窓口の利用を周知し、会員へのサポートを行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●商工会機能強化支援事業 空き店舗バンクの構築や町アドバイザーによる経営相談、地元商店主催のイベントを応援。 ●商工観光課連携事業 情報共有のため、月に1度の定例会を開催、町地域振興アドバイザーによる助言や巡回訪問、経営相談窓口の協力 ●各関係機関(ジェトロ香川、かがわ産業支援財団、よろず支援拠点等)と商工会が連携し、町内企業や商店が抱える問題を解決するために、テーマや内容を商工会と協議しながら開催。 ●商工会青年部と連携し、地場産業座談会を開催。(不定期) ●平成27年9月に民間企業等経営指導や小豆島の活性化に向けて助言をいただくため、小豆島町経営指導専門監(地域振興アドバイザー)として元銀行マンの藤井孝博氏を新たに委嘱。今後は、技術的課題については、太田アドバイザー、経営相談については、藤井アドバイザーの2名体制で企業訪問を実施。 ●空き倉庫等を活用した集落再生事業を展開。民間事業者の力で滞在型施設を整備し、農産物、海産物の加工や商品開発、生産者と地域との協働による食のワークショップ等の交流拠点として、「社会資本整備総合交付金空き家活用型」を利用して地域活性化に取り組む。
<p>〈基幹産業が抱える数多くの課題を解決するため、地場産業活性化セミナーや地場産業座談会(異業種交流含む)の実施による相談支援の充実を図る〉</p> <p>小豆島の地場産業(佃煮、醤油、素麺、オリーブ)である食品産業が抱える数多くの課題(食品表示、販路拡大、新製品開発、技術的課題等)を解決するために、各関係機関と連携しセミナーを開催した。20年後の小豆島を見据え、異業種の若手を集め座談会を開催し、若い人たち一人一人が行動に移せるようにワークショップや座談会を開催した。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>地場産業活性化セミナーの開催</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>座談会の開催</p> </div> </div>	
<p>〈基幹産業が抱える技術的な課題を解決するため、地域振興アドバイザーの企業訪問による情報提供や解決に向けた専門的アドバイスを実施〉</p> <p>地域活性化を図るためには、地元企業と密接した連絡をとり、企業の動向を常に注視することが必要なことから、かがわ産業支援財団の研究アドバイザーである太田泰弘氏を平成23年度より地域振興アドバイザー(小豆島町地域振興アドバイザー設置要綱)として委嘱。地元企業を訪問した際に技術的課題の解決に向けたアドバイスや情報提供を行った。</p>	

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅲ 産業づくり	施策	産業振興による地域経済の活性化
所管課等	産業支援室		

具体的な施策の取組み状況	今後の展開等
<p>《かがわ産業支援財団ファンド事業を支援するため、商品の販路拡大に向けた国内展示会出展補助事業の活用を図る(採択企業に対する旅費1/2の支給)》 新製品、新サービスや新技術で首都圏や全国展開を目指す町内企業の業務提携や販路開拓を応援するためにファンド事業を採択された企業に対して旅費の補助を行った。</p>	<p>●島内企業の販路拡大を目指すために、島内単独企業での見本市の出展では、小豆島全体での産業の底上げに至っていない。 今後は旅費支援を廃止し、小豆島全体の食品産業の活性化を図るため、小豆島のネームバリューを活用した町内複数企業が出展できる見本市(小豆島地場産業PR事業)へ制度を移行するため終了する。(平成29年度より廃止)</p> <p>●補助制度の波及により、島内にて起業をしたい方が平成25年度施行以降年々増加傾向にある。町内に新規企業やお店がオープンすることは島内に雇用機会を生み、地域経済の発展に繋がるため、今後も継続して既存企業含め支援を行う。</p> <p>●現在は、「醤油、佃煮、素麺、オリーブ」などの小豆島の伝統産業を支える企業の出展申込みが多いため、今後は、新たに起業して首都圏に販路開拓したい企業にも参加を促し、小豆島の新たな魅力の情報発信とPRを行う。</p>
<p>《新しい産業づくり条例に基づく既存企業の規模拡大を図るため、固定(償却)資産の減免措置と起業家支援を行い、地域経済の発展と雇用機会の拡大を図る》 新しい産業づくり条例に基づき、既存企業の規模拡大を図るための企業誘致支援と小豆島において新たに起業する者に対して、準備資金等の補助を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ひしおトマト:H26年度事業】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【ミノリジェラート:H27年度事業】</p> </div> </div>	
<p>《小豆島の特産品に関する情報発信とPRのため、町内企業数社が展示できるブースを確保し、小豆島の認知度アップを図る(小豆島地場産業PR事業)》 小豆島の特産品を積極的にPRすることは、島内企業の新製品の開発や販路拡大に繋がるため、全国最大級の食の見本市「スーパーマーケット・トレードショー」に「小豆島ブース」を確保した。多くの町内食品産業企業が出展できるように平成28年度よりブース枠を6枠から8枠に拡大し、小豆島の認知度アップを図った。 開催日:平成29年2月15日～17日(3日間) 会場:幕張メッセ 出展者:香川県ブース(40社うち11社小豆島企業) ※3日間来場者数:86,768人</p>	



総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅲ 産業づくり	施策	産業振興による地域経済の活性化
所管課等	産業支援室		

具体的な施策の取組み状況	今後の展開等
--------------	--------

≪離島活性化交付金を活用した「地場産業競争力強化物流支援事業」による戦略産品（醤油、佃煮）の海上輸送費部分の一部支援≫
 ■平成25年7月31日付で「小豆島」が離島指定され、「離島活性化交付金」を活用した支援。他地域に比べて、不利になっている地場産業（醤油、佃煮）の一部の海上輸送費を補助することにより、競争力を強化し、経営の安定と雇用拡大を図った。事業期間は3年で最終年度となる。

 ■平成26年度実績 合計42,661,456円 ※交付金活用補助金のみ
 上期 醤油醸造業(10社 17,905,880円)佃煮製造業(15社 7,875,886円)
 下期 醤油醸造業(9社 8,491,806円)佃煮製造業(15社 8,387,884円)

 ■平成27年度実績 合計42,227,257円 ※交付金活用補助金のみ
 上期 醤油醸造業(9社 18,480,941円)佃煮製造業(15社 7,908,648円)
 下期 醤油醸造業(8社 8,220,226円)佃煮製造業(15社 7,617,442円)

●事業期間の3カ年が終了し、各企業に波及効果調査を実施した結果、当初の目的である雇用の維持拡大及び設備投資に関しては一定の成果があった。

≪経営支援体制の一層強化のため、よろず支援拠点小豆島サテライトの活用を図る≫
 □小豆島地域の相談拠点として、香川県よろず支援拠点の協力により平成27年3月25日に「よろず小豆島サテライト」を開設。
 中小企業・小規模事業者への経営支援体制の一層の強化のため、庁舎内(内海庁舎1階)による支援拠点の専門スタッフによる相談窓口を無料で開設した。
 また、開設を記念してセミナーも開催した。
 ・小豆島サテライト開設記念セミナーの開催(H27. 5. 20)
 ・小豆島サテライト開設1周年記念セミナーの開催(H28. 4. 11)

●よろず支援拠点「よろず小豆島サテライト」は、毎月第3火曜日に開設しており、1日最大4件の相談に応じているため、今後相談件数によっては、香川県よろず支援拠点と連携し開設日数の増加を検討する。



開設記念セミナーの開催





小豆島サテライトの開設








総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	Ⅲ 産業づくり	施策	観光振興による地域活性化
所管課等	商工観光課		

具体的な施策の取り組み状況	今後の展開等
<p>《交流人口の拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平成28年3月20日に開幕した「瀬戸内国際芸術祭2016」では、会期中、約15万5千人が小豆島を訪れ、作家によるWSやお接待等による来訪者とのふれあいを通じて交流を図った。外国人観光客の増加も顕著であった。(再掲) 	<p>《体験型旅行商品創造事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■小豆島ふるさと村を拠点とする地域資源を活かした体験型旅行商品を造成する。地域の産業活性化、農山漁村活性化につながる取り組みを推進する。 <p>《効果的な情報発信事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■さらなる外国人観光客の獲得に向け、情報社会において影響力の強い外国人インフルエンサー(拡散力のある情報発信者)等を招聘し、SNSを用いた効果的な情報発信を推進する。 ■小豆島の観光において中心的存在である一般社団法人小豆島観光協会のホームページ「小豆島旅ナビ」について、ターゲット市場を絞り、インバウンドに対応した多言語化を推進し、さらなる外国人観光客の獲得を目指す。
<p>《国際交流・情報発信設備等の整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国際交流アドバイザーを中心に「小豆島観光国際化チーム」を発足、芸術祭期間中、各港でウェルカムサポーターとして、外国人観光客等の受入対応を行った。(再掲) ■芸術祭に向けて展示施設のほか、観光施設等にWi-Fi環境を整備し、来訪者の利便性向上を図った。(再掲) 	<p>《-選ばれる観光地-受入環境整備事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本三大渓谷美に数えられる名勝寒霞渓の山頂においてWi-Fi環境を整備し、外国人を含む観光客の利便性の向上を図るとともに、その場で小豆島の魅力を世界中に発信できる機会を創出する。 ■外国人旅行者の中で流行しつつあるインターネットを通じた民泊について、小豆島における独自の民泊の可能性を調査研究する。 ■柔軟なインバウンド対応に向けて、観光施設や宿泊施設等においてアドバイザーによる出前英会話教室等の活動を展開する。

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	IV 1次産業の再生と復興	施策	小豆島オリーブトップワンプロジェクト
所管課等	オリーブ課・健康づくり福祉課		

具体的な施策の取り組み状況	今後の展開等
<p>《小豆島オリーブトップワンプロジェクト》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オリーブを用いた健康長寿の島づくり事業 オリーブを用いた食生活の普及推進により、生活習慣病を予防し、島民の健康増進を図ることを目的とし、セミナーや講演会等を実施した。   <ul style="list-style-type: none"> ■ ブランド力向上としてオリーブ品評会(オイル・園地)の実施 栽培者・出品者の技術向上と意欲の増進を図るため実施している。 ■ 結婚・出産・移住・小学校入学記念苗木の贈呈 人生の節目に島花・島木であるオリーブを贈呈している。 ■ 小学校での出前授業の実施 愛郷心の育成を目的に、オリーブの出前授業を実施(クラブ教室)    <ul style="list-style-type: none"> ■ 小豆島オリーブ検定の実施 情報発信のツールとして、小豆島及び東京で実施 ■ 減農薬栽培の栽培試験 オリーブ公園にて環境にやさしい減農薬による試験栽培を実施 ■ 剪定枝の堆肥化 循環型農業を目的とし、剪定枝をチップパーにかけて堆肥化した。平成28年度からオリーブ公園内で販売している。 ■ オリーブマルシェへの出展 毎年東京で行われているオリーブマルシェへ出展、小豆島産オリーブオイル等の情報発信を行った。 	<p>《原点に立ち返った栽培》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ モデル園地を設定し、基本管理を忠実に行った場合とそうでなかった場合との比較検証を行うとともに、指導者としての人材育成を行う。 <p>《オリーブサミットの実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オリーブ植栽110周年を記念して、2018年に開催する。 <p>《東京オリンピック・パラリンピックにおける冠贈呈》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 東京オリンピック・パラリンピックにおいてオリーブ冠贈呈に向けて、関係機関への働きかけを行う。 <p>《オリーブの現状調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 栽培園地の土壌調査を県の機関に依頼し、炭疽病との関係を検証する。 ■ 栽培農家や企業を集めた座談会の実施や現状アンケートの実施 ■ 一般家庭を対象にしたオリーブ製品普及アンケートの実施 <p>《栽培技術向上講習会の開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基本栽培管理を徹底するため、剪定・防除等の講習会の回数を増やす。

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅳ 一次産業の再生と復権	施策	農業の再生に向けて
所管課等	農林水産課		
具体的な施策の取組み状況		今後の展開等	
<p>《農業の基盤整備》</p> <p>生産基盤の整備を進め、栽培条件の改善を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ■インフラ整備については、池田地区中山間総合整備事業で、約50年経過し老朽化した中山からのかん水設備「池田の畑かん」改設のほか、農道等の整備について平成30年度実施に向けて国に採択申請中。(総事業費;約12億円) 		<p>《池田地区中山間総合整備事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平成30年度から実施予定の事業の円滑な実施のため関係水利組合との調整を進める <p>《担い手・新規就農者等への支援》</p> <p>担い手や新規就農者への支援を引き続き行う</p> <p>※H29の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ■省エネ化による経費削減のため、電照菊栽培の支援として、花卉部会員へのLED球購入の助成(農協も1/2助成) ■花卉生産者グループへハウスの上部かん水設備や内張り被覆へ助成し、省力・省エネ化を進める ■従来のアグリ塾(農作業の基礎的の講習会)に加え、H29からの新規事業・「かがわ農業MBA塾」(認定農業者らの経営戦略や財務・労務管理に関する講座)への参加費用の一部助成を行い、人材育成に努める 	
<p>《担い手・新規就農者等への支援》</p> <p>担い手等の営農条件の改善への取組みを支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■JAそ菜部会(アスパラガス)の省力化のための出荷用自動選別機整備の助成、同部会(にんにく)には、出荷調整するための乾燥機の整備を支援し、収入の安定化を図った ■認定農業者の施設整備(ハウスの上部かん水設備や内張り被覆)への助成をし、省力化が図れた ■新規就農者へ青年就農給付金を支給し、営農の安定化の支援ができた ■東條地域農業集団の集落営農活動への支援(多面的機能・農村カフェ)した 		<p>《6次産業化への取組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■認定農業者が法人化し、オリーブの生産・加工・販売施設の整備に対し、単県事業と併せて支援する ■醬トマトのような新作物への取組み、また長命草のような新食材開発事業へ支援する 	
<p>《遊休地対策》</p> <p>高齢化等による遊休地の発生抑制、また、オリーブ栽培の推進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■耕作放棄地の再生作業に伴う経費を支援することより、不耕作地を解消する。また、再生地でのオリーブ栽培の推進も図られた ■香川県農地機構や農業委員会等と協働し、遊休農地の貸し借りの掘り起しを行った 		<p>《鳥獣害対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、環境づくり・防護・捕獲を組み合わせる被害対策に取り組む ■増加する捕獲数に対する肉の有効活用、いわゆるジビエに対して研究を進める 	
<p>《鳥獣害対策》</p> <p>イノシシ等、野生鳥獣からの農作物被害対策を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ■イノシシ、シカ、サルなどの野生鳥獣による農作物被害を防止するため、捕獲による個体数の減少また、被害防止柵の設置等の推進を図れた(69件 約10.8kmの実績見込み) ※市街地の侵入防止柵 中山、田浦、北地、安田 約6.2km ■香川県の協力を得て、野生鳥獣肉の活用に関する講演会及び実技指導を実施した 		<p>《鳥獣害対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、環境づくり・防護・捕獲を組み合わせる被害対策に取り組む ■増加する捕獲数に対する肉の有効活用、いわゆるジビエに対して研究を進める 	
<p>《棚田保全活動》</p> <p>日本の農村の原風景(棚田)の保全活動に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ■小豆島の貴重な農業遺産である「中山の棚田」の保全活動を継続する。現在、棚田保全員で、1.14haを管理 約3トンを収穫する また、棚田オーナー制度に加え、森園酒造と協働して棚田の酒米(平成27年度米)で、地産地消の酒「はちはち」の製造・販売に取り組めた 		<p>《農村環境の保全》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■棚田協議会で今後も保全活動に努める ■東條地域農業集団の環境にやさしい農業への取組み を支援し、また他地域での営農集団化を推進する 	



総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	Ⅳ 1次産業の再生と復権	施策	漁業の再生に向けて
所管課等	農林水産課		
具体的な施策の取り組み状況		今後の展開等	
<p>《豊かな里海再生事業》</p> <p>地方創生加速化交付金を活用し、活力ある里海の再生に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ■近年、貧栄養化等によって魚介類の減少も問題によって困難になっており、海の活力を取り戻すためのひとつの実験として、「アサリの復活」の研究を高知大学・漁協と協働して取り組む(吉田地区の海岸での底質調査等) また、ケアシエル(カキ殻加工固形物)によるアサリの稚貝育成も実施中 ■海産資源の回復のため、町単事業で稚魚の放流を実施し、関係団体である漁協に加えて、海への関心をもってもらうために園児らによる放流も同時に行った(クロマル 約5万尾(町全海域)) 		<p>《豊かな里海再生事業》</p> <p>引き続き、里海の再生を目指す研究などを継続する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■アサリの養殖、藻場や干潟の造成に向けた研究を引き続き取り組む、また香川大学と新たなアサリの生育場に関する調査を実施する ■水産資源の回復のための、町単独事業で稚魚放流を継続して実施し、漁業振興を図る 	
<p>《環境保全活動》</p> <p>瀬戸内海の環境保全を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■例年実施する漁業組合の稚魚放流事業へ助成し、水産資源確保の支援を図った ■2漁協に委託し、海底に堆積しているゴミの回収事業を行い環境の改善を実施した(述べ215隻 約7トン回収) <p>※漁業者による操業時のゴミ回収活動も別途実施中(ゴミの処分は環境衛生課対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■海浜清掃による海辺の環境保全活動では、自治会やボランティアによる自主的なごみ回収活動に對して、ゴミ袋等の提供、ゴミの回収及び処分は町が対応した(H28 実施団体 16団体 関係課:建設課・環境衛生課) 		<p>《環境保全活動》</p> <p>貧栄養化瀬戸内海の環境保全に引き続き取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ■海底堆積ゴミ回収事業による環境の改善を図る ■漁協が実施する稚魚放流事業へ助成する ■海浜清掃などで、町民が参加する里海づくりの検討する <p>《生産活動への支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■海苔の色落ち対策の研究に対する支援を継続する 	
<p>《生産活動への支援》</p> <p>貧栄養化等による養殖海苔の色落ち対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ■貧栄養化等の影響で、近年、海苔の色落ち問題があり、その対策は、生産価格に直結する大きな課題であり、H23から取り組み、H25からは国の支援を受けて5か年事業として取り組んでいる <p>※海苔網を囲い、栄養塩の散布することで、色落ち対策の効果は検証されている</p>		<p>《食の流通改革モデル事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■獲る漁業から、漁業者や飲食店、観光関係者、行政等が協力してCASと急速冷凍装置を組み合わせた冷凍設備等、新たに地元の水産物の流通についての検討を始める(先進地への視察) 	
<p>《漁業振興の検討》</p> <p>今後の漁業の振興策を検討するための協議会設立の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■漁協と町長懇話会の中で、将来の漁業を守るため、積極的な方策を検討する協議会の設立について合意する <p>※食の流通改革モデル事業(冷凍保存設備を利用した地元水産物の流通改革)の検討</p>		<p>※CAS(セル・アライブ・システム) 細胞を破壊せず、鮮度等を保つ技術を加えた凍結システム</p> <p>《小豆島町漁業振興協議会(仮称)の設立》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■水産資源の減少や高齢化・後継者不足、魚介類の消費量の減少など大きな課題に向けた諸政策を検討するため、漁協代表者と町で構成する協議会を設立する 	

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅳ 1次産業の再生と復権	施策	小豆島ふるさと村・将来ビジョンの策定
所管課等	商工観光課		

具体的な施策の取組み状況	今後の展開等																										
<p>●農業の再生を柱に小豆島ふるさと村の将来ビジョンの策定に向けて検討を行う予定であったが、将来ビジョン検討会(仮称)の委員選定等準備ができなかったことから、施設内容や事業内容の課題を抽出するため、有識者による意見交換会を開催した。</p> <p>【検討経緯・年次計画】</p> <p>昭和49年 国民宿舎小豆島オープン 平成4年 小豆島ふるさと村開村 平成14年 国民宿舎小豆島をふるさと村に統合 平成28年度 小豆島ふるさと村意見交換会の開催 平成29年度 小豆島ふるさと村将来ビジョン検討会(仮称)の設置 ⇒将来ビジョンの策定</p> <p>【小豆島ふるさと村意見交換会の開催】</p> <p>◎小豆島ふるさと村の今後10年を見据えてビジョンを検討するため意見交換会を開催した。</p> <p>■意見交換会名簿(ふるさと村評議員、地元自治会長等13名にて構成)</p> <table border="0"> <tr> <td>(一財)小豆島ふるさと村公社評議員</td> <td>藤本 傳夫</td> </tr> <tr> <td>(一財)小豆島ふるさと村公社評議員</td> <td>福本 一男</td> </tr> <tr> <td>浜条自治会長</td> <td>安井 信之</td> </tr> <tr> <td>小豆島町地域振興アドバイザー</td> <td>藤井 孝博</td> </tr> <tr> <td>池田手延そうめん生産者組合代表</td> <td>西山 誠</td> </tr> <tr> <td>中山棚田協議会会長</td> <td>九野 賢輔</td> </tr> <tr> <td>池田漁業協同組合参事</td> <td>中野 郁夫</td> </tr> <tr> <td>(一財)小豆島ふるさと村公社専務理事</td> <td>森川 佳則</td> </tr> <tr> <td>前(一財)小豆島オーリーブ公園専務理事</td> <td>長西 孝</td> </tr> <tr> <td>(一財)小豆島ふるさと村公社副理事長</td> <td>松尾 俊男</td> </tr> <tr> <td>小豆島町副町長</td> <td>松本 篤</td> </tr> <tr> <td>小豆島町企画振興部農林水産課長</td> <td>近藤 伸一</td> </tr> <tr> <td>小豆島町企画振興部商工観光課長</td> <td>久利 佳秀</td> </tr> </table> <p>※必要に応じて、外部有識者を追加。</p> <p>■開催日 4回開催(平成29年2月末現在)</p> <p>日時:平成28年7月11日 内容:小豆島ふるさと村将来ビジョンについて 日時:平成28年8月1日 内容:ふるさと村施設内容について 日時:平成29年1月23日 内容:ふるさと村宿泊施設について(料理内容) 日時:平成29年2月24日 内容:ふるさと村施設別収支内容について 日時:平成29年3月予定 内容:ふるさと村施設利用実績について</p>	(一財)小豆島ふるさと村公社評議員	藤本 傳夫	(一財)小豆島ふるさと村公社評議員	福本 一男	浜条自治会長	安井 信之	小豆島町地域振興アドバイザー	藤井 孝博	池田手延そうめん生産者組合代表	西山 誠	中山棚田協議会会長	九野 賢輔	池田漁業協同組合参事	中野 郁夫	(一財)小豆島ふるさと村公社専務理事	森川 佳則	前(一財)小豆島オーリーブ公園専務理事	長西 孝	(一財)小豆島ふるさと村公社副理事長	松尾 俊男	小豆島町副町長	松本 篤	小豆島町企画振興部農林水産課長	近藤 伸一	小豆島町企画振興部商工観光課長	久利 佳秀	<p>◎小豆島ふるさと村将来ビジョンの策定</p> <p>平成28年度に開催した「小豆島ふるさと村意見交換会」にて抽出した課題を基に「小豆島ふるさと村将来ビジョン検討会(仮称)」を設置し、今後10年間を見据えて施設の活用、事業の検討し、小豆島ふるさと村将来ビジョン(仮称)を策定する。</p> <p>◎ふるさと村を拠点とした体験型ツアー商品創造事業</p> <p>小豆島の地域資源を活用して、小豆島ならではの体験ができる旅行商品の造成を行い、多くの観光客に「小豆島」を体験してもらう。地域の産業活性化、農山漁村活性化につながる取り組みを展開する。</p> <p>◎将来ビジョン策定による様々な体験メニュー、連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●隣接する手延そうめん館と連携した箸分け体験と宿泊のセットメニューの開発。 ●棚田で有名な中山地区と連携した農業体験の提供。 ●地元で農作物を生産している方に少量でも販売できる「ふるさと村産直市(仮称)」を開催。 ●大学との連携による企画提案やSNSによる情報発信 ●漁業協同組合と連携した漁業体験やイベントの実施。
(一財)小豆島ふるさと村公社評議員	藤本 傳夫																										
(一財)小豆島ふるさと村公社評議員	福本 一男																										
浜条自治会長	安井 信之																										
小豆島町地域振興アドバイザー	藤井 孝博																										
池田手延そうめん生産者組合代表	西山 誠																										
中山棚田協議会会長	九野 賢輔																										
池田漁業協同組合参事	中野 郁夫																										
(一財)小豆島ふるさと村公社専務理事	森川 佳則																										
前(一財)小豆島オーリーブ公園専務理事	長西 孝																										
(一財)小豆島ふるさと村公社副理事長	松尾 俊男																										
小豆島町副町長	松本 篤																										
小豆島町企画振興部農林水産課長	近藤 伸一																										
小豆島町企画振興部商工観光課長	久利 佳秀																										
																											
																											
																											
																											

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	V文化・アート総合戦略 VIII国際交流・移住者	施策	V 瀬戸内国際芸術祭2016の取り組み VIII 国際交流の推進
所管課等 企画財政課(瀬戸内国際芸術祭2016推進室)、社会教育課、商工観光課			
具体的な施策の取り組み状況		今後の展開等	
《交流人口の拡大》 ■平成28年3月20日に開幕した「瀬戸内国際芸術祭2016」では、会期中、約15万5千人が小豆島を訪れ、作家によるWSやお接待等による来訪者とのふれあいを通じて交流を図った。外国人観光客の増加も顕著であった。 ※経済波及効果別紙参照		《小豆島未来大学》 ■瀬戸内国際芸術祭2016で「小豆島町未来プロジェクト」のディレクター、京都造形芸術大学、椿教授により「小豆島未来大学」と題して、様々な分野の専門家を招聘して福祉や産業等の魅力づくりと人材育成に向けて講演会やワークショップ等を展開する。	
《移住・定住の促進》 ■移住者数は順調に推移(H27年度148名、H29年2月末現在101名)している。 ■芸術祭では移住者とクリエイターとのコラボにより新たな起業を展開。小豆島の食材を活かした「食」の魅力を日本と世界に発信した。		《ぬくもりと希望の島づくり事業》 ■遊児老館などで、演劇や文化・アート活動等のワークショップを通じて、障がい児や年齢の垣根を越えた多世代交流事業を展開する。	
《国際交流・情報発信設備等の整備》 ■小豆島観光協会を中心に「小豆島観光国際化チーム」を発足、芸術祭期間中、各港でウェルカムサポーターとして、外国人の受入対応を行った。 ■「英会話研修講座」等を行い、小豆島を英語でガイドすることのできる人材育成を行った。 ■世界21か国、約70人の考古学者が来島し、東アジアで初となる「世界考古学会議小豆島プレツァー・プレシンプジウム」を開催。 ■芸術祭に向けて展示施設のほか、観光施設等にWi-Fi設備を整備し、来訪者の利便性向上を図った。		《継続したアート事業の展開》 ■平成29年3月18日から「アートセトウチ2017」を開催、屋外作品を中心に引き続き、アート作品を展開する。 ■三都半島アートプロジェクトでは引き続き広島市立大学による作品展示、地域交流を展開する。 ■福武ハウスでは、アジアアートプラットフォーム2017として作品展示、地域交流を展開する。	
《食文化の提供》 ■壺井栄の小説に登場する小豆島の食を一皿の料理にした「本から生まれる一皿」を瀬戸内国際芸術祭の食PJとして実施した。 ■展示施設近隣では地域の自発的な取り組みによる「お接待」等により、瀬戸内海の豊富な地域資源である「食」を通じて、小豆島の食文化の魅力を発信した。		《国際交流》 ■ウェルカムサポーターにより、インバウンド対応として、観光施設や宿泊施設等で活動を展開する。	
《三都半島アートプロジェクト》 ■広島市立大学による作品展示を中心に、12か所で展開。 ■展示施設等では地域の有志によるお接待や作品受付等に関わり、来訪者との交流を深めた。		《福武ハウス》 ■アジア6か国による作品展示をはじめ、地域の食材を活かしたアジア食堂の展開、アジアアートフォーラムの開催等を通じ、国際交流を図った。	

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	V 文化・アート総合戦略	施策	壺井栄・黒島伝治・壺井繁治再発見プロジェクト
所管課等	社会教育課		
具体的な施策の取組み状況		今後の展開等	
<p>≪壺井栄50周年記念事業≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 壺井繁治と栄の書簡集編纂事業 H28.6 『二人の手紙 壺井繁治・壺井栄獄中往復書簡集』を刊行 壺井栄賞授賞式参加者、関係機関に配布 ■ 壺井栄年譜「50年の暦」作成 H28.6 デザイン:樋笠彰子氏、文責:須波敏子氏。2,200部作成 壺井栄賞授賞式、原作映画上映会等で配布するとともに、 小中学校の生徒にも配布し、郷土作家の普及を図った。 単なる年譜にせず、栄の主な本の表紙を差し込む等、 見やすくデザインに富んだ内容となった。 ■ 記念式典 H28.6.23 壺井栄賞授賞式のほか、記念式典にて 須波敏子氏の講演会を開催。書簡集及び年譜の配布。 ■ 壺井栄原作映画上映会 H28.9.19「あすの花嫁」「雑居家族」及び浜田光夫トークショーの開催 整理券:480枚、入場者:350人(台風の影響) ■ 展示会「壺井栄の唄 今つくる、本の形」の開催 H28.10 壺井栄の短編作品をモチーフとしたブックデザイン展の開催 		<p>≪郷土作家の顕彰・普及≫ 壺井栄、黒島伝治のほか、小豆島の誇る郷土作家の顕彰を行い、彼らを偲ぶとともに、 魅力の普及を行い、郷土の文化の向上に寄与する。</p> <p>≪電子本作成と公開の継続≫ 壺井栄ら郷土作家の文学作品を、インターネットを介した端末(スマートフォン、タブレット、PC等)で気軽に閲覧できるよう、書籍の電子化を進める。</p>	
<p>≪小学校、中学校等の教育機関との連携による郷土作家普及≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「二十四の瞳」DVDの配布 平成28年度中に町内小中学校にDVD高峰秀子版(昭和29年)、田中裕子版(昭和62年)を配布 各学校に授業での活用を求める。 		 <p style="text-align: center;">壺井栄賞授賞式</p>  <p style="text-align: center;">電子本</p>	

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	V 文化・アート総合戦略	施 策	文化財の保護と活用
所管課等	社会教育課		
具体的な施策の取り組み状況		今後の展開等	
<p>《指定文化財の保存・普及活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 説明看板整備、広報による連載等の各種取組 一般町民に向けての文化財の認知、普及を図る。 ■ 補助金交付 補助金交付等を通して、適切な修繕、保存管理の指導、後継者育成を図り、後世まで文化財を継承する。 		<p>《小豆島の新たな魅力づくり》</p> <p>地域振興にあたり、文化財は欠かすことのできないものとなりつつある。各種調査や普及活動を通じて、島の魅力を再発見する。特に「醬の郷」等の近代産業遺産の残る町並みを重点課題とし、将来的な「伝統的建造物群保存地区」を目指す。</p>	
<p>《各種調査による魅力発見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 古文書調査保存事業 町内の古文書類について調査、整理を行い後世へと引き継いでいく現段階で町が所有する古文書類の整理は終了し、町民の方の所有するものの調査・整理を行っている。保存・記録処理については順次進めているが、有効活用の方法については現在有識者と検討中である。 ■ 小豆島農村歌舞伎調査事業 国の重要無形民俗文化財指定をめざし、小豆島農村歌舞伎のもつ歴史的、文化的、民俗的な価値を明らかにする。平成29年1月に土庄町と共同で「小豆島農村歌舞伎調査委員会」を設立し、順次資料収集、調査を実施している。平成29年度からは国庫補助金を取り入れ、本格的に着手。平成31年度までに完成させる。 		 <p>《文化遺産保存継承事業》</p> <p>看板設置、広報連載など、地道な普及活動を進めるとともに、企業の社会貢献活動との連携を図るなど、町内外に対する文化財情報の発信・普及に努める。</p>	
<p>《新たな指定、認定に向けて》</p> <p>平成27年、平成28年と日本遺産の認定に向け、関係者と協議を続け申請をおこなってきたが、不採択となった。再度島の持つ魅力について様々な角度から検証し、各種指定や認定に向けた調査や働きかけを行う。</p>		    	

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	V 文化・アート総合戦略	施策	東瀬戸内文化圏の「世界遺産化」に向けた取組み	
所管課等	企画財政課「世界遺産化」対策室			
具体的な施策の取組み状況		今後の展開等		
<p>《瀬戸内海・小豆島 石のシンポジウム2015の開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本の三都の城郭(江戸・大坂・金沢)と石切丁場の魅力を日本と世界に発信 ◇日時 2015年(平成27年)11月7日(土)～8(日) ◇会場 福田体育館(福武ハウス) ◇参加者 300名(県内 227名 県外73名) ■瀬戸内海の歴史と文化を学び体験する「石の文化クルージング」を同時開催 航路 池田港→丸亀市本島・塩飽勤番所→池田港 参加者 130名 ※石割実演、火縄銃体験、刻印石写真パネル展もあわせて開催 		 	<p>《シンポジウム・フォーラムの開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大坂城石垣と小豆島をはじめとする瀬戸内の石切丁場の魅力を高め、日本と世界に発信するアカデミックなシンポジウムやフォーラムを開催し、東瀬戸内文化圏の地域間連携を推進 <p>《大学連携による学術調査の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■同志社大学と連携し、亀崎、八人石丁場沖に眠る船積遺構等を新たに調査・研究することで、近世初期の海運技術を徹底検証 ■徳島文理大学との連携を高め、現地調査に加えて、古文書等による歴史調査を展開 	
<p>《世界考古学会議 小豆島プレシンポジウム・プレツアアの開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■東アジアでは初となる世界考古学会議第8回世界大会のオープニングを飾る小豆島プレシンポジウム・プレツアアを開催し、小豆島の自然、文化、伝統、産業、人びとの絆などの魅力を世界で活躍する考古学者が自ら体験。小豆島の文化景観とおもてなしの心が絶賛され、成功裏に終える。 ◇日時 2016年(平成28年)8月26日(金)～28日(土) ◇会場 小豆島オーリーブ公園 サン・オーリーブ(シンポジウム) 基調講演 ティム・ウイリアムズ先生 寒霞渓、中山(棚田・農村歌舞伎・素麺)、醬の郷(醤油・まちなみ) 東海岸(石・魚)、神浦(石・地引網) ◇おもてなし 食生活改善推進協議会、福田自治連合会、中山自治会、福田アジア食堂 神浦自治会、中山農村歌舞伎保存会、各産業界の皆さん 等 ◇小学生の活躍 シンポジウムにおいて安田小6年生が石の文化を発表 		 	<p>《石の研究活動の場としての聖地を目指す》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大学生が地形、地質、岩石の基礎を学び、研究するための最適地と言われている小豆島。神戸大学、高知大学、香川大学が学生の野外実習を毎年度実施。大学連携をさらに拡大し、石の研究活動の聖地を目指す。 ■文化財石垣保存技術協議会(本部:姫路市)が展開している石工の技術の保存・継承事業の研究活動の場を小豆島に誘致し、石工職人が集い、学び、交流する事業を展開。 <p>《住民共同の考古学:パブリックアークオロジ-の実践》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域の人びとや学生が主体となり、石切丁場における石材の分布調査等を展開 ■受け継がれてきた石工の知と技術と情熱を次の世代に伝えていくため、NPO法人「石の文化研究所(仮称)」を設立 ■子どもたちの「ふるさとを愛する心」を育てるため、石の文化の体験学習等を開催 ■文化遺産を活用した新しい文化ツーリズムを専門家やエージェントと連携・協力しながら構築 	
<p>《大学との連携による学術調査の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■同志社大学の石切丁場調査 ■徳島文理大学の石の展覧会 ■神戸大学の岩石・基盤調査 ■高知大学の地質・地形調査 ■香川大学のジオパークの推進 	<p>《石工の知と技術の継承》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■古来より受け継がれてきた石割、石積の知と技術等を保存・継承するため、全国の石工がつながり、学び、交流する活動を展開 	 		

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	VI 交通の復権	施策	小豆島地域公共交通網形成計画の作成、オーリーブバスの利用促進、オーリーブruCaの普及促進、海上交通の振興、交通弱者の移手段の確保
所管課等	企画財政課、健康づくり福祉課、高齢者福祉課		
具体的な施策の取組み状況		今後の展開等	
<p> ≪小豆島の公共交通体系の再編≫ ■瀬戸内国際芸術祭の開幕、小豆島中央病院の開院、小豆島中央高校の開校など、島内の周辺環境の大きな変化に伴い、平成28年3月20日から上限運賃を片道300円とし、ダイヤや路線の再編を行うなど、島内の公共交通体系を大幅に見直した。 ■再編に向けて、小豆両町の自治会、老人会等の各種団体のほか運輸事業者、警察のほか、両町長もオブザーバーに加わり、計7回の協議会を開催、運賃値下げや利用促進策等に関する合意を経て、地域公共交通網形成計画が承認、平成28年3月に計画が完成した。 ■オーリーブバスに運行を委託していた三都線を一部継承して、三都半島を巡回する町営バス三都線（東線4便・西線6便）を平成28年3月20日から運行を開始。その後、利用者の意見、小豆島中央高校の開校等を踏まえ、平成29年4月1日から東線を1便減、ダイヤ変更や路線延長を行うとともに、新たに車両を購入し、利便性、安全性の向上を図る。 </p>		<p> ≪利用促進策等の強化≫ ■小豆島中央高校にバスで通学する生徒の定期券購入に係る助成制度を開始する。バスの利用促進をはじめ、子育て支援、交通安全対策等、総合的観点から両町、バス事業者とともに、積極的にPRを行う。 ■通院での利用が多いと見込まれる高齢者、あるいは自治会等に呼びかけ、バス利用等に関する「乗り方教室」を継続して開催、併せて、町内小学校等に公共交通の利用に関する授業を実施するなど、バス事業者の連携を図り、公共交通の理解と利用を促進する。 </p>	
<p> ≪公共共通の利用促進等≫ ■小豆島オーリーブバスが、希望する自治会や老人会等を対象に、乗車方法やruCaカードの使い方等、実際に走行している車両を活用し、「バスの乗り方教室」を開催した。 ■小豆島まつりやふるさと商工まつりなどのイベント時に、バスでの来場をお願いするなど、公共交通の利用を呼びかけている。 ■庁内では通勤手当支給者を対象に、通勤時に週1度の利用を促すほか、バス事業者については、ruCaカードを推進するなど、利便性向上を図っている。 </p>		<p> ≪航路の活性化≫ ■京阪神の玄関港となる坂手港での神戸市との交流事業の展開や芸術祭で拠点となった港を活用したイベントの開催等、港、航路の活性化に向けた取組みを推進する。 </p>	
<p> ≪海上交通の振興≫ ■ジャンボフェリー就航5周年を記念した式典等の開催や瀬戸内国際芸術祭等により関西方面から多くの観光客が訪れる等、坂手港は、かつての京阪神の玄関港としての賑わいを取り戻しつつあり、航路の活性化を図っている。 </p>		<p> ≪通院困難者支援事業≫ ■路線バス等の公共交通機関の利用が困難な在宅で生活する町民税非課税の重度障害者等に対して、タクシーチケットの助成を実施する。 </p>	




総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	VI 交通の復権	施策	道の駅、海の駅の機能強化
所管課等	商工観光課		

具体的な施策の取組み状況	今後の展開等
<p>《小豆島ふるさと村における既存施設の維持修繕・各施設の拡張》 小豆島ふるさと村が管理運営する施設について、経年劣化している施設及び設備の修繕や駐車場の拡張工事を行い、機能の充実と強化を図った。</p> <p>●小豆島ふるさと村管理施設 【体育施設】 体育館、運動場、テニスコート 【体育施設等】 交流ふれあい農園、ファミリープール、ワインハウス、イベント広場、管理棟、夢想館 【宿泊施設】 国民宿舎小豆島、ふるさとロッジ、ファミリーロッジ、オートキャンプ場、デイキャンプ場</p> <p>●取り組み内容(大規模な修繕等記載) 【ふるさと村駐車場整備工事】平成28年3月25日竣工(平成27年度) 小豆島ふるさと村管理棟前駐車場は、来客用に大型バス4台と乗用車44台しか車が駐車できない状態で、イベント開催時やシーズン中においては駐車スペースが確保できていなかったため、隣接する土地を取得し駐車場整備を行った。乗用車8台分(237㎡)の駐車場を拡張した。</p> <p>【国民宿舎小豆島及びふるさと荘手すり等設置工事】(平成27年度) 障害者や高齢者が不便と思われる箇所について、バリアフリー化工事を施工することにより、誰もが訪れやすく利用しやすい施設として整備し、観光施設・宿泊施設として集客力向上及び福祉の充実を図った。</p> <p>【国民宿舎小豆島浴槽用ろ過機取替工事】(平成27年度) 【国民宿舎小豆島浴槽温調三方弁取替工事】(平成27年度) 【国民宿舎小豆島冷温水発生機改修工事】(平成26年、27年度) 【ふるさと荘及びロッジ客室エアコン更新工事】(平成27年度から3ヶ年計画) 【ふるさと村備品購入事業(国民宿舎小豆島厨房内食器洗浄機)】(平成28年度)</p>   	<p>《小豆島ふるさと村将来ビジョン策定による機能強化》</p> <p>■将来構想 ○歴史ある地場産業の体験や自然環境を活かした農業体験に加え、地産品の食事提供など地域住人との連携による地場産業の発展と情報発信を行う。 ○魅力ある小豆島の観光案内と地域情報(三都半島)の観光窓口として、観光産業の発展と体験・交流機会の提供を行う。 ○都会の大学生との連携による新たな体験メニューの開発。 ○併設する観光施設をバリアフリー化することで、地域住民や観光客が利用しやすい施設整備を行う。</p> <p>■既存施設の維持修繕・各施設の拡張 ○イベント広場の検討 ○いちご農園拡張の検討</p>   <p>○ファミリープールの検討・改修</p>  <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>経年劣化による施設の修繕と整備、また新たな体験教室の開発を行う。</p> </div> <p>○バリアフリー化に向けた点検事業(手すり、スロープ設置)</p>  

総合戦略のこれまでの取組みと今後の展開等

基本施策	Ⅶ 自然・環境	施 策	産官学民による環境の再生・活用を推進 快適な生活環境づくりに向けたごみ問題の取り組み								
所管課等	環境衛生課										
具体的な施策の取組み状況		今後の展開等									
<p>《老朽危険建物の除却推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空き家等対策計画に定める、空き家の適正管理のうち、周辺環境に影響を与える老朽危険建物を対象に、補助制度を創設。所有者の除却インセンティブを誘発。制度認知、活用共に順調に普及 		 <p>《老朽危険建物の除却推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 一定の施策の効果が得られたものの、老朽危険空き家の除却による周辺環境の改善を、より効果的なものとするため、周辺環境への影響度の評価するなど、制度適用物件の優先度を考慮するなどの検討を行う。 									
<p>《ごみの排出抑制や再生量の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ごみ排出抑制のインセンティブ誘発を目論み、大型(粗大)ごみの収集方法を変更し、排出量を抑制 <table border="1" data-bbox="217 831 1010 938"> <tr> <td>変更前</td> <td>臨時集積所の設置</td> <td>1回/年</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>変更後</td> <td>自宅前でのピックアップ</td> <td>常時</td> <td>有償(手数料)</td> </tr> </table>		変更前	臨時集積所の設置	1回/年	無料	変更後	自宅前でのピックアップ	常時	有償(手数料)	<p>《ごみの排出抑制や再生量の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 適正なごみ分別を一層推進するため、資源ごみ集排出機会の拡大など、住民の意識啓発と利便向上を目指す。 	
変更前	臨時集積所の設置	1回/年	無料								
変更後	自宅前でのピックアップ	常時	有償(手数料)								
<p>《合併処理浄化槽の整備促進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 本町の生活排水処理方針は、多額の事業費を要する下水道整備に代えて、合併処理浄化槽の効率的な整備を選択し、整備費補助制度の導入(内海地区:平成6年から、池田地区:平成4年から)により継続的に推進 		<p>《合併処理浄化槽の整備促進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 合併処理浄化槽設置整備費補助事業を継続。水洗化人口比率の向上により、生活排水の水質向上を目指す。 									
<p>《一般廃棄物埋立処分地の整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備予定地を決定し、用地買収を完了 		<p>《一般廃棄物埋立処分地の整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 平成29年度において、現地測量、環境影響調査、基本設計を実施。施設整備の早期完了を目指す。 									

総合戦略のこれまでの取り組みと今後の展開等

基本施策	Ⅷ 国際交流・移住者	施策	移住・定住の促進
所管課等	企画財政課		
具体的な施策の取り組み状況		今後の展開等	
<p>《移住・定住促進施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■他団体・他地域との連携 NPO法人Totieや土庄町と連携し、移住定住促進施策に取り組んだ。小豆島として統一したPRができ、また民間の柔軟な発想や創意工夫のある取組ができた。 ■空き家バンクの運営 空き家バンク利用や物件確保を目指し、町内や首都圏でのチラシの配布、島外物件所有者へ税の通知案内にチラシを同封する等、周知徹底に努めた。 ■空き家活用事業補助金交付制度の実施 小豆島町空き家バンクに賃貸を目的として登録している空き家の所有者に対し、事業対象経費(住宅の改修、家財道具の廃棄等)50万円までの全額及び50万円を超えた額の1/2の助成を行い、物件確保につなげた。(限度額100万円、50万円を超えた額は県補助) ■小豆島町移住促進家賃等補助金交付制度の実施 郡外からの移住者(Uターン含む)に、賃貸住宅等の家賃及び契約時に係る初期費用の一部を補助する制度を平成28年度から開始した。(家賃の50%を2年間補助【限度額2万円/月】、初期費用50%【限度額6万円】、1/2は県補助) ■移住交流イベント等の実施 東京3回・大阪で1回、移住交流イベントに参加し、首都圏に住む移住希望者に対し幅広くPRを行った。また、島暮らしガイドツアーを8月・11月と2回実施し、会社見学や空き家めぐり等を行った。8月実施の際にはハローワーク土庄と連携し、小豆島就職面接会にも参加した。 		<p>《他団体との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■NPO法人Totieや大学等と連携し、移住希望者のニーズを踏まえて、幅広く柔軟な施策を展開する。 <p>《既存制度の継続、移住交流フェアの実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■空き家バンク、空き家活用事業補助金、移住定住促進家賃等補助金等の制度を引き続き実施する。 ■首都圏での移住交流フェアや島暮らし体験等を実施し、幅広いPR活動を行う。  <p>《空き地・空き家再生プロジェクト》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■就労者向け滞在施設の整備運用 平成28年度から実施している廃業旅館の施設整備を終え、平成29年7月から就労者向け滞在施設の運用を開始し、「住まい」の確保と企業の人材誘致による「雇用」の創出を図る。施設整備と運用についてはNPO法人Totieに業務委託を行う。 ■堀越暮らしの輪プロジェクト 平成25年度から堀越地区で空き家調査・活用を通じて魅力的なリソースを活かす方法を検討している早稲田大学古谷研究室が、引き続き地域の方とWS等を実施し、旧教員住宅を活用したモデル事業等について継続して検討を進める。 	
<p>《NPO法人との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■NPO法人Totie(トティエ)発足 平成28年4月に、移住・定住促進団体であるNPO法人Totieを設立。小豆島町と連携し、移住者と地元住民をつなぐ活動を展開している。 ■移住体験施設の整備・運営 平成23年から使用している末松アパート(中長期滞在施設)に加え、細井邸(中長期滞在施設)と黒田邸(短期滞在施設)を整備し、運用を開始した。 ■移住交流イベント等の実施 小豆島町と連携し、首都圏で実施するフェアの参加や、島暮らし体験ツアー等を実施するなど、広報PRを行った。 ■就労者向け滞在施設の整備 小豆島町空き家等対策計画の有効活用事業として、廃業旅館を活用した就労者向け滞在施設の整備を進めている。  			